

小学校四年

チャレンジ 話すこと・聞くこと

この音声問題は、第四学年国語問題の冒頭に放送するものです。

はじめに、話すこと・聞くことにチャレンジしましょう。

今から一回だけ、音声による問題を放送します。よく聞いて、あとの問題に答えてください。問題用紙は開かないでください。聞いていて大切だと思うことは、表紙のあいているところにメモをしてもかまいません。

四年二組では、国語の時間に、「わたしのおすすめの本を紹介しよう」ということで、自分たちのおすすめの本について、お互いに発表し合うことになりました。次の二人の発表を聞いて、聞いている人に分かりやすいように工夫しているところを探してみましょう。

まず、ひろしさんの発表を聞きましょう。

ぼくのおすすめの本は、谷川俊太郎さんの「いっぽんの鉛筆のむこうに」です。

この本を読むと、鉛筆が自分のところに届くまでの、次の二つのことがよく分かります。

一つめは、鉛筆ができるまでに、たくさん材料が必要だということです。

二つめは、鉛筆は、たくさん国の人々のおかげでできているということです。

この「いっぽんの鉛筆のむこうに」を読んで、一本の小さな鉛筆でも、たくさん国の人とつながっているということが分かりました。みなさんも、この本を読んで、身のまわりの持ち物とたくさん国とのつながりを考えてみてください。わたしの紹介した本の名前は、「いっぽんの鉛筆のむこうに」でした。

次に、ゆみこさんの発表を聞きましょう。

わたしのおすすめの本は、動物が主人公の本です。わたしは、動物と人間のお互いの気持ちを通じ合う場面が好きです。そこで、今日はきつねが出てくる本を二冊紹介します。

一冊は、安房直子さんの「きつねの窓」、もう一冊は、新美南吉さんの「てぶくろを買いに」です。

「きつねの窓」では、きつねが「思い出の見える窓」の作り方を人間に教えてくれます。また、「てぶくろを買いに」では、きつねが人に化けて手袋を買いに来ます。お店の人は、その正体が分かっていながら、知らないふりをして手袋を売ってあげるのです。

二冊の本には、きつねと人間が出てきます。そして、人間は相手がきつねだと分かっても捕まえずに、きつねのお話を信じてくれます。

わたしも、この二つのお話のように、動物とお話をして仲良くなりたいと思いました。ぜひ、みなさんも読んでください。

放送はこれで終わりです。

それでは、問題用紙を開いて始めてください。